

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ。
使用前に取扱説明書入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
必要に応じて個人用保護具を使用し、ばく露を避けること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。

【救急処置】

取扱った後、手を洗うこと。
飲み込んだ場合、吐かせないこと。
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】

施錠して保管。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報:

情報なし

3. 組成、成分情報

化学物質
単一製品・混合物の区別: 混合物
成分及び含有量 カルボン酸、アルカノールアミン、防食剤、界面活性剤、油脂類、防腐剤、カーボン、水
化学名または一般名: 通知対象物質なし
化学特性(化学式又は構造式) 特定できず
濃度または濃度範囲:

4. 応急処置

吸入した場合: 被災者を新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合: 皮膚を速やかに洗浄すること。水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

| | |
|--------------|--|
| 目に入った場合: | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。 医師の手当、診断を受けること。 |
| 飲み込んだ場合: | 気分が悪い時は、医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 医師の手当、診断を受けること。 |
| 最も重要な兆候及び症状: | 気分が悪い時は、医師の手当、診断を受けること。 情報なし |

5. 火災時の措置

| | |
|--------------|---|
| 消火剤: | 粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂 |
| 使ってはならない消火剤: | 棒状注水、噴霧水 |
| 特有の危険有害性: | 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法: | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。 |
| 消火を行う者の保護: | 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|------------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: | 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8.ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入は避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 |
| 環境に対する注意事項: | 密閉された場所に立入る前に換気する。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。(排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。) |
| 回収、中和: | 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 |
| 封じ込め及び浄化の方法・機材: | 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は設置する。 |
| 二次災害の防止策: | すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 容器内に水を入れてはいけない。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|------------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策: | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 |
| 局所排気・全体換気: | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 |
| 安全取扱い注意事項: | 使用前に使用説明書入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| 接触回避: | 『10. 安全性及び反応』を参照。 |

保管

| | |
|---------|---|
| 技術的対策: | 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 |
| 混触危険物質: | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| 保管条件: | 酸化剤から離して保管する。 施錠して保管すること。 |
| 容器包装材料: | 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|-------------------------|---|
| 管理濃度: | 設定なし |
| 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標): | 設定なし |
| 日本産衛学会(2006年版): | 設定なし |
| ACGIH(2006年版): | 設定なし |
| 設備対策: | この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。 空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。 高熱取扱いで、工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具: | 必要に応じて適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具: | 必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。 |
| 眼の保護具: | 適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) |
| 皮膚及び身体の保護具: | 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。 |
| 衛生対策: | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-------------------------------|----------------------|
| 物理的状態、形状、色など: | 黒色液体 |
| 臭い: | 低臭 |
| pH: | 10.0 |
| 融点: | -15°C以下 |
| 沸点: | 105°C (1.013 Pa) |
| 引火点: | なし |
| 発火点: | データなし |
| 爆発範囲: | データなし |
| 蒸気圧: | 10.7 Pa |
| 蒸気密度(空気 = 1): | 2.62 |
| 密度: | 1.02 (20/20°C) |
| 溶解度: | 水可溶 アルコール、アセトンに溶解 |
| オクタノール/水分配係数: | データなし |
| 自然発火温度: | データなし |
| 分解温度: | データなし |
| 臭いのしきい(閾)値: | データなし |
| 蒸発速度(酢酸ブチル = 1): | データなし |
| 燃焼性(固体、ガス): | 該当しない |
| 動粘度(40°C、mm ² /s): | 3.0 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-------------|---------------------|
| 安定性: | 安定である |
| 危険有害反応可能性: | 強酸化剤と反応する。 |
| 避けるべき条件: | 強酸化剤との接触を避ける。 |
| 混触危険物質: | 強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物: | 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、等 |

11. 有害性情報

| | |
|--------------------|---|
| 急性毒性(経口) | :配合成分の急性毒性値から算出した急性毒性値(ATE)から、混合物として区分外とした。 |
| 急性毒性(経皮) | :配合成分の急性毒性値から算出した急性毒性値(ATE)から、混合物として区分外とした。 |
| 急性毒性(吸入:気体) | :本製品は液体であり、分類対象外とした。 |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | :混合物として分類できないとした。 |
| 急性毒性(吸入:粉塵及びミスト) | :混合物として分類できないとした。 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | :配合成分の区分を基に、混合物として区分2とした。 |
| 目に対する重篤な損傷・刺激 | :配合成分の区分を基に、混合物として区分1とした。 |
| 呼吸器感受性 | :混合物として分類できないとした。 |
| 皮膚感受性 | :混合物として区分外とした。 |
| 生殖細胞変異原性 | :混合物として分類できないとした。 |
| 発がん性: | :混合物として区分外とした。 |
| 生殖毒性 | :混合物として分類できないとした。 |
| 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) | :混合物として区分1(肝臓)とした。 |
| 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) | :混合物として区分2(肝臓、血液、腎臓、中枢神経)とした。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | :混合物として分類できないとした。 |

12. 環境影響情報

| | |
|-----------|----------------|
| 残留性/分解性: | :データなし |
| 生体蓄積性: | :データなし |
| 水生環境急性有害性 | :混合物として区分3とした。 |
| 水生環境慢性有害性 | :混合物として区分外とした。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|-----------|--|
| 残余廃棄物: | 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 |
| 汚染容器及び包装: | 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|-----------|---|
| 国際規制 | |
| 国連分類: | 非該当 |
| 国連番号: | 非該当 |
| 国内規制 | |
| 陸上輸送規制情報: | 消防法、安全衛生法、毒劇物法等に該当する場合にはそれぞれの該当法規に定められる運送方法に従う。 |

海上輸送規制情報:
航空輸送規制情報:
特別の安全対策:

船舶安全法に定めるところに従う。
航空法に定めるところに従う。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

化学物質排出管理促進法: 非該当
労働安全衛生法(第57条の2、
施行令第18条の2別表第9): :第219号:ジエタノールアミン 含有量:7~15%
毒物及び劇物取締法:
消防法: 非該当
海洋汚染防止法: 非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律: 産業廃棄物規制

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先: 株式会社研削研磨
Tel: 03-5619-4857 Fax: 03-5916-4858

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。